

総務産業常任委員会会議録

- 1 日 時 平成29年12月15日(金)
12時15分開会 12時53分閉会
- 2 会議場所 役場3階第1委員会室
- 3 出席議員 委員長：桜井崇裕 副委員長：中島里司
委員：高橋政悦、口田邦男、西山輝和
(欠席 委員：佐藤幸一)
議長：加来良明
- 4 事務局 局長：佐藤秀美、係長：宇都宮学
- 5 説明員
- 6 議 件

(1) 所管事務調査の申し出について
- 7 会議録 別紙のとおり

委員長（桜井崇裕）：ただいまから総務産業常任委員会を開会する。

議件（1）所管事務調査の申し出について

委員長：所管事務調査の申し出が本日までとなっている。1点は、昨日の委員会では、地域の公共交通の件を所管事務調査することについて皆さんから同意を得たところ。もう1点は、口田委員の一般質問の中であった食の拠点構想について、清水公園の再開発にも結びつくことであろうし、将来的な道の駅の構想にも結びつくことでもあろうと思うが、3月までの所管事務調査として道の駅を取り上げるのかについてお諮りするためにお集まりいただいたところであるのでよろしく願います。

今回の一般質問を受けて、所管事務調査として申し出したほうがよいかどうかについて口田委員から何か考え方があれば。

口田委員：一般質問をしたが、メインは道の駅だがご承知のとおり町長自体は当分の間、考えられないとの答弁なので、考えられないものを調査しても意味がないという考え。

高橋委員：今日の答弁を聞いて、道の駅について考えていないことは分かった。ただ、我々議員として、町民は明らかにこんな立地条件で道の駅がないということに対して不満を持っているし、やれるだろうと思っている。それについては、所管事務調査は立案も可能なので、委員会として何とかしてやってもらえる方向で持っていく意味合いも無きにしも非ずという気がする。なぜやれないのかという説明を受けた後、やる方法を探るためにどこかに行くという手もある。とにかく逃げ腰の執行側に対して物申す場があってもいい気がする。

中島委員：今の高橋委員の言うとおりでと思うが、この議題については私なりに思うところがあり調べておく必要があるのかなと思う。高橋委員の言われた話をもっともなことだし、提案するのも1つの方法だと思うが、我々もこの内部だけでの所管だけでなく実際に幅広く知識を得ておく必要があるのではないかなと思う。高橋委員の意見を聞いて、残りがあと約1年であるので、その間で、当委員会としては取り組む必要があるのかなと。取り組むためには我々も知識をもう少し持つ必要があるのかなと感じた。新年度早々に取り組んでもいいのかなと思った。今回の所管事務調査は期間が一番短く学び取る時間も短いので、当委員会としては、新年度に向けて調整してもいいのではないかと。町長が方針を出していれば別であるが、今のところ考えていないような話なので。方向を変えさせるためには学んでからまとめる必要があるのかと。道の駅の件について、今回申し出をしたら継続になってしまうのではないかなと思うので、新年度に送って時間をかけて協議をしたほうが良いという思いをしたところ。

西山委員：中島委員が言われたようにもう少し様子を見て、いろいろ調べてから、調査するのなら来年度に向かってやるようにしたほうが良いと思う。今日の町長の答弁を聞いていても道の駅を当面やるような構想を持っていないので違う項目の調査をしたほうが良いと思う。

口田委員：私が先程言ったのは、今回の調査のことだけを言っている。高橋委員の意見を聞いて今後の問題として取り上げてほしいと思う。

高橋委員：確かに知識があまりにもなさ過ぎるということはあるが、今回口田委員が一般質問の中で答弁を受けて、この後、この話題についての一般質問は動きがあるまではしばらくないだろうと思う。今回の所管事務調査でその取っ掛かりをつくりたいというか、当然調査を1回で終わらず気は毛頭ないので、当然継続に

なる。今回は執行側を動かす話をしたい。執行側にも調査してもらおうがこちらでも独自にでもいいが調査する。このタイミングなので余計動かしたいと思うのが個人的な気持ち。特につつこんでという話でなくて、まず今障害になっているのは何なのか、その辺を調べた上で今後の方針となる。来年度に本格的にやるのはそれでいいが、どうせなら今から話題を提供しておいてというほうが任期中に話がまとまっていくのではないかと。時間はかかるのはもちろんであるができるだけ早くきっかけをつくるべきでないかという気がする。

委員長：高橋委員から話があったが、道の駅というか食の拠点構想、清水公園の再開発については、委員会としていろいろな調査をする意味についてはよろしいか。我々は任期が残り1年という中で調査をしなければならないという中で、後半はなかなか難しいので9月までになろうかと思うが。高橋委員が言われるように早くから事前調査をしながら執行側に計画に結びつくようなことをしていったほうがいいのではということで、継続調査を含めながらある程度委員会として調査をしたいとのことだが、これについてはどうか。

高橋委員：今日の答弁の中で、食の拠点構想についてはもう既に動き出している。だけど、口田委員が言ったとおり、結果として真新しいこともなく、ちょっと毛の生えた程度だと思う。そんなものが進んでいったことによって、逆にこの後に控えている町民の皆さんが求めている道の駅構想がつぶされかねない。であれば早めに手を打つべきであろうと。そちらも合わせたものをつくっていかないと。食の拠点は食の拠点、道の駅は道の駅というふうに考えていたら、町民の求めるものはできないだろうという気がする。なるべく早くそちらを絡めた中で方向性を決めていくべきではないかという気がする。

委員長：今回の3月定例会までに道の駅について調査をすれば、何らかの調査をすることになろうかと思うが。調査内容があれば挙げていただきたい。最初から視察に行くわけにはいかないと思うのでまずどういった調査をするかということになろうかと思う。担当ということになると商工観光課になる。一般質問のなかでは関わらなかったが商工観光課からは今の情報発信拠点についての状況とか発信状況や反応だとか、町長の言うような清水公園内に案内所をつくっていくことに対しての進め方や考え方の調査になろうかと思う。

高橋委員：この話題は何年も前から各議員が一般質問をしたり、いろいろなアプローチをしているはず。それについて、それぞれ一般質問をした議員にはそれなりの返答があったりしているが、町民に向けてこうだからやらないという話もない。私が質問した時は、とりあえず調査してからという話があったが、その調査も実際の話、できないための理由づくりでしかなかった。3月までの間の調査については、今の動きとして千年の森やハーモニープラザによる情報発信拠点をやったことによる効果を聞きながら、なぜそれがやれなかったのかの理由を聞きたい。それに対して、委員会としてこうすべきではないかという話も出てくると思うので、そこらへんを調査したい気がする。

委員長：高橋委員は今回の答弁を受けて、執行側につなげるために新年度からではなくてすぐに調査をしたいとのこと。この件に関して執行側に意見聴取をするのはできるのかできないのか事務局に聞きたい。

佐藤局長：高橋委員が言われたように、現在商工観光課で取り組んでいる情報発信拠点については調査可能だと思う。道の駅の構想については、今日一般質問に対する町長答弁があり、担当課としてはそれ以上の答弁はできない。ここは完全に政策の部分なので、いくら議会で所管事務調査をしても町長など執行機関への拘束力は全くない。所管事務調査は調査報告をするだけなので、それを受けてどうするかは執行側の判断である。議員としてどうしても道の駅構想を進めていくのであれば、今日のように一般質問で今後その道の駅についてはどうなのかということは何回もやっていくとかという手もある。所管事務調査については、調査後に委員会報告があったから、そのとおりに執行側が進むのかということかと決してそうではないことだけは理解をしていただきたい。現状の道の駅

について商工観光課に聞いても、今日の町長答弁以上のことは担当課としては言えないと思う。

委員長：食の拠点構想を含めて観光の発信拠点はありますが、そういったものが道の駅にどう結びついていくなどについて、現状の中で担当と意見交換できるのか。

中島委員：調査そのものについてはタイミングがあると思う。事務局から話があったように、町長は道の駅に関してははっきりと当分中ぐらいまでやらないとはっきり言っている。過去の町長はやらないとは1回も言わなかった。それは高橋委員の言うとおりに、ずっと引っ張っておりお互いに検討していなかった。首長が新しくなり町長からこのように意思表示をはっきりとされたら、担当者に道の駅構想の件について聞いても基本的に町長以上のことは言えないはず。だから担当課を呼んで聞いても、拠点構想の部分の話になる。私は道の駅の件について今回申し出をしてもいいのかもしれないが、継続ありきで出すのであれば新年度改めてやって行動を起こすというか、ただ聴き取るだけでなく、聴き取ったものを行動しながらという調査をかけてもいいのでは。調査項目は道の駅とするのか別の項目に変えるのかは思いつかないがそういうことのほうがいいのか。と。どういうタイミングで上げるかについては、今回申し出をしても現状を聞くだけで道の駅には結びついていかないと思う。首長がこのような答弁をしているので担当者がどういう思いがあっても言えないと思う。3月に一般質問をする方がいればそういう機会をとり、新年度に改めて申し入れをしては。調査項目のタイトルをどうするかについては慎重に考えた上で、残された期間で本格的に調査するというスタイルのほうがいいのか。これについては黙っておくわけにはいかない案件だと思っているので、ぜひそういう部分でタイミングを見ながらと思っているところ。

委員長：1年を残した中で、新年度に対応するとの意見に対して高橋委員はどうか。

高橋委員：局長が言われるように所管課は何も言えないだろうが、実際にこちらで段取りを取ったところで何も言わない、何もやらないというのが清水町役場の特徴でもある。それだったら所管事務調査をやっても無駄であるし、一層のこと何もしないほうがいいのかなという気がする。今までの体質を変えて町民に納得をしてもらうということは格好ではないという感じがする。やれることをやってぶつかっていけばいいという気がする。そうではないのであれば、私の意見は無視してもらっても結構ということ。

委員長：休憩する。

【休憩 12:37】

【再開 12:46】

委員長：再開する。道の駅に関する調査をすることについては前向きにという結論が出ていると思うが、あとは調査時期の問題。今回の3月までの所管事務調査としてなぜこの道の駅構想が今回の一般質問の中ですぐに出来ないのかということについて関連した調査を行いたいという高橋委員の意見と、ちょっと期間を置いて、それぞれがある程度知識・情報を得て、新年度に入ってから行ったほうがよいという2つの意見がある。再度皆さんの意見を聞いて、本委員会の今回の所管事務調査の方向を決めたい。

西山委員：中島委員の言うとおりに時期を見て、我々も執行側から聞くだけでなく、道の駅の実態をもう少し勉強してから取り組んだほうがいいのかと思う。次の3月にどうするかを検討して話し合いをしたほうがよろしいと思う。

口田委員：私も同じ。所管事務調査で云々というよりもっと根深いものがあるので、特別委員会を設置してこれに没頭して研究するか、それとも研究会を立ち上げてやるほうがよいという気がする。結論的には今回は申し出しないということ。

高橋委員：このことに関しては私が最初に言い出したことだが、一切合切却下する。

中島委員：重要なまちづくりという部分では、課題として長年残っている。前へ進んでい

ない。そういう思いを改めて町に掘り起こすきっかけづくりをしてもいいのではないか。そういうことからいって、私は3月定例議会までの調査事項として申し出てもいいが、今の話をしてもそれはおそらく調査終了にはならないだろうし、若干時間が必要ではないかという思いから、年度が変わってから申し入れをしてじっくり調査をさせてもらうという方向でいったほうがよいのではないかと思う。だから新年度以降ということで改めて協議したほうがいいと思う。

委員長：皆さんの意見を聞いた中では、道の駅の件については、ある程度期間を置いて、新年度に入ってから行ったほうがいいのではないかと。高橋委員は違う意見であるが、口田委員が言われた所管としてやるのかいろいろなかたちの中でやるのかは別の問題であるが、そういったことを含めて改めて新年度で所管事務調査として取り上げてできるのかできないのかを含めて協議をすることにならざるを得ないと思うが、そういったことでよろしいか。

(よろしいの声あり)

委員長：3月定例会までの所管事務調査については、「地域公共交通の取り組みについて」を調査したいと思う。そのほかにぜひやりたいという項目があれば、意見をいただきたい。

(ありませんの声あり)

委員長：3月定例会までの所管事務調査については、「地域公共交通の取り組みについて」と、突発的な事項に対応するため「その他所管に関する事項について」の申し出を行うことでよろしく願います。
以上で、総務産業常任委員会を終了する。